

適合性評価SWGの紹介

(AI・Digital分野における適合性評価の在り方)

適合性評価SWG

AIセーフティ・インスティテュート

高村博紀

2026年10月7日

AISI事業実証WG 上期報告会

AISI Japan
AI Safety Institute



AIセーフティ・インスティテュート

高村 博紀

Takamura Hiroki

産総研 特別研究員、科学技術振興機構 研究員、
株式会社アトリエ エキスパートエンジニアを経て、
2017年より日本品質保証機構、2024年よりAISII
(IPA DADC AIシステム部)に出向中
2026年度より人工知能学会理事(国際標準担当)
ISO/IEC JTC1 SC42、IEC TC56など標準化活動に従事
博士(情報科学)

**ISO/IEC
42001:2023**
(JIS Q 42001:2025)

情報技術—人工知能—
マネジメントシステム

要求事項の解説

Artificial Intelligence Management System

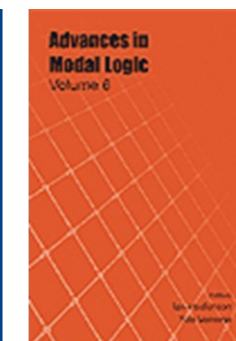
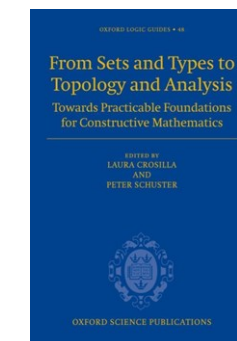
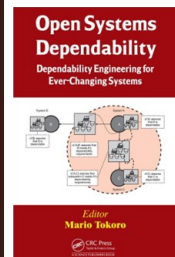
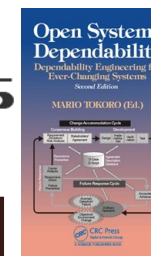
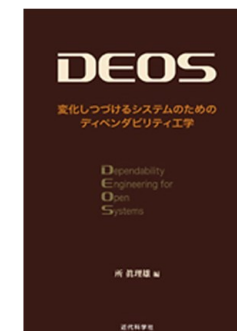
高村 博紀 編著

日本規格協会

ISO/IEC 42001



DEOS



研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム（BRiDGE）

AIセーフティ・インスティテュート（AISI）

AI分野における新たな適合性評価の検討

- ①調査 & 共同研究
- ②**勝ち筋シナリオ**
- ③パイロット評価の検討
- ④AI標準化 & 適合性評価人材育成プログラムの検討

有識者委員会

AISI 運営委員会

事業実証WG

...

適合性評価SWG

合同開催

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）
一般社団法人情報マネジメントシステム認定センター（ISMS-AC）
一般財団法人日本規格協会（JSA）
独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）適合性評価推進センター
一般財団法人日本品質保証機構（JQA）：CASCO国内委員
国立研究開発法人産業技術総合研究所：SC42国内委員長他

認定試験所連絡会（JALA）
日本マネジメントシステム認証機関協議会（JACB）
JIS登録認証機関協議会（JISCBA）

今年度から

AI分野においては、サービス形態や運用体制とともに動的に変化し続ける中、従来の静的かつ一括的な適合性評価の枠組みでは対応が困難となりつつあるのではないか？

- ◆ ISO CASCOにおいてISO/IEC 17067改定中（現在FDIS）、JIS化作業中
- ◆ AI マネジメントシステムの国際標準 ISO/IEC 42001 が発行、JIS Q 42001が8月に公示
- ◆ AI システムに対する適合性評価に関する国際標準としては、ハイレベルなフレームワークを規定するISO/IEC 42007 の開発がISO/IEC 17067の改定と連動する形で開始（現在DIS）

適合性評価スキームの見直し、組合せなど柔軟な枠組みが必要ではないか？

- ◆ 国際標準を基礎としたAI適合性評価について検討を進め、パイロット評価を実施し、ガイドラインの策定、制度設計などへと提案していきたい

適合性評価SWGの概要

- 分野別SWGの取組みを通じて、自己適合評価を含むAI適合性評価手法の確立を目指す。
- 国際標準化の議論を踏まえて、包括的なアシュアランス・アカウントビリティ確保に係る適合性評価制度を設計する。

現状と課題

- 従来の適合性評価制度では、変化し続ける対象への評価に対応しきれない
- ISO/IEC 42007（開発中）は適合性評価のハイレベル枠組み
⇒柔軟かつ適切な評価方法と実行可能な手順が必要

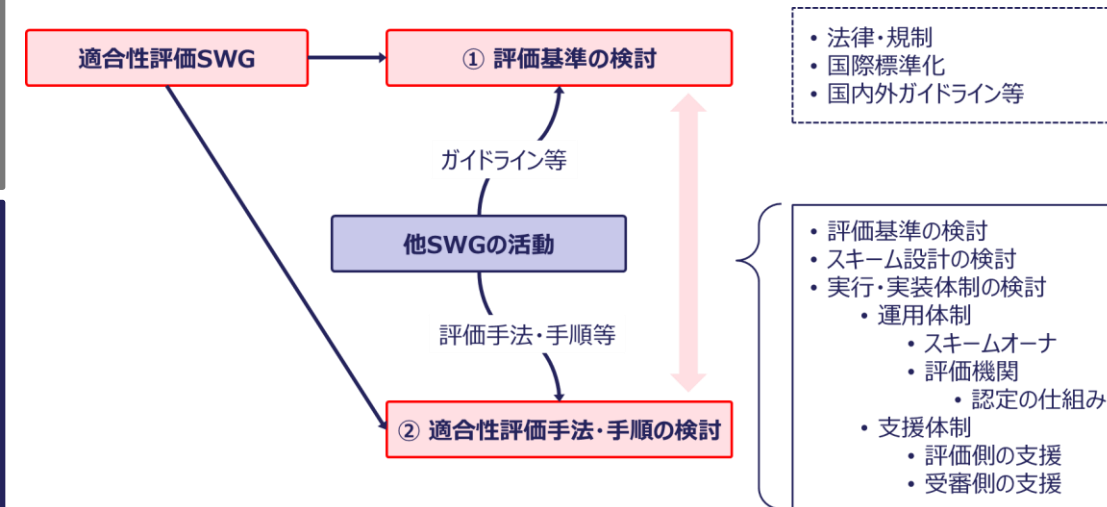
適合性評価手法の確立への取組み方針

- 他SWGの活動から、AIへの要求事項等を導出
- 自己適合性評価を含むAIに関する適合性評価手法と実行可能な運用手順の確立と制度設計を目指す

<具体的なステップ>

ヒアリング・課題抽出 → 制度設計に向けた検討 → ツール・体制整備 → 国際標準との整合

適合性評価手法の確立への取組み方針



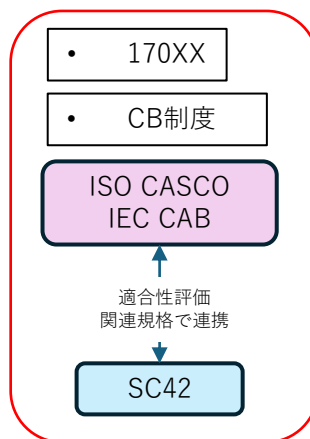
	短期的な取組み (2025年度)	中期的な取組み (2026年度～2027年度)	長期的な取組み (将来的なビジョン)
SWGの ロードマップ	- 適合性評価の関連機関を中心としたSWGを組成し、既存の適合性評価手法を分析するとともに、包括的なAI適合性評価について検討 - 分野別SWGとの連携によるヒアリング	- 国際標準化議論を踏まえた、包括的なアシュアランスとアカウントビリティ確保に係る適合性評価制度の設計 - AIに関する適合性評価制度のあり方の具体化と試行により実効性を検証	- 国際的な実装モデルとの整合性を踏まえたガイドライン整備 - 国際的に総合運用可能な実運用体制構築を視野に入れた段階的な展開

・ 制度設計に向けた検討

相互運用・相互承認

- ISO/IEC規格の活用、諸外国の制度・海外民間主導の取組との関係

変化し続ける対象を
どう評価するか
評価基準・評価手法



- 評価基準
 - 法律・規制
 - 国際規格
 - ガイドライン等
- スキーム設計
 - ISO/IEC規格の活用**
- 実行・実装体制
 - 運用体制
 - スキームオーナー
 - 評価機関
 - 認定機関
 - 支援体制
 - 評価側の支援
 - 受審側の支援

①評価基準の検討

AI適合性評価

②適合性評価手法・手順の検討

法律／規制

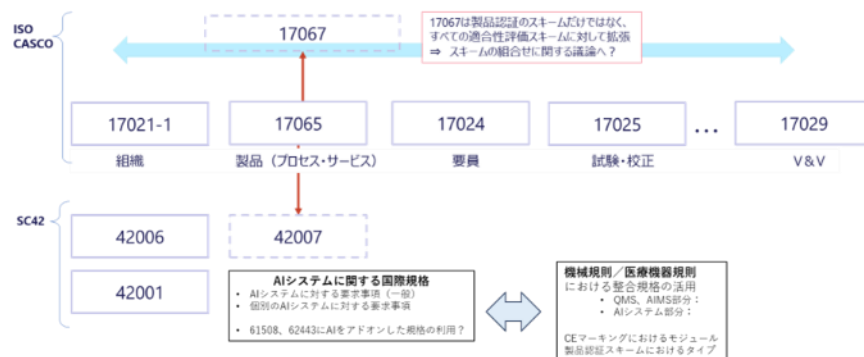
諸外国の制度
欧州・米国・その他

- 制度設計
 - 相互運用性
 - 相互承認
- 国内体制
 - スキームオーナー
 - 評価機関
 - 評価機関の認定

海外の民間主導の取り組み

- AISIC
- AI Trust Alliance
- AI Verify Foundation等

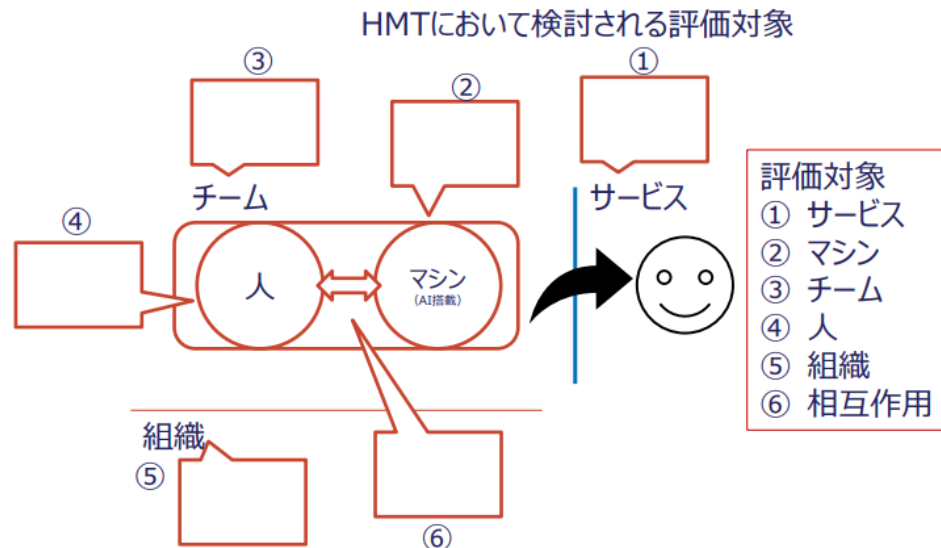
適合性評価に関する国際規格はISO CASCO（いわゆる17000シリーズ）にて開発・維持されている。AI分野における関連規格との関係を図示する



適合性評価の現状の整理、国内のAIに関する取組状況の整理を踏まえ、Human Machine Teaming(HMT)を題材にAI適合性評価の在り方を検討。

HMTを踏まえたAI適合性評価の在り方の検討

- HMTは、人とAIが協力して目的達成（サービス提供）に向けて取り組むものである。
- HMTを題材にAI適合性評価を検討する場合、AIだけでなく、人間、AIと人間の協働関係、サポートする組織など様々な評価対象が存在し、それらを評価するにあたり各種課題が存在する。
- 2025年度の適合性評価SWGでは、HMTにおける評価対象を6点に整理して議論を行った。
- 各評価対象において、評価すべき観点と課題について整理した。



何故、HMTを題材にするのか

- 評価対象が複数存在
- 評価手法も異なる
- サービスを評価対象としたときの適合性評価をどうすべきか



複数の適合性評価の組合せが必要
⇒ 包括的なAI適合性評価に通じる

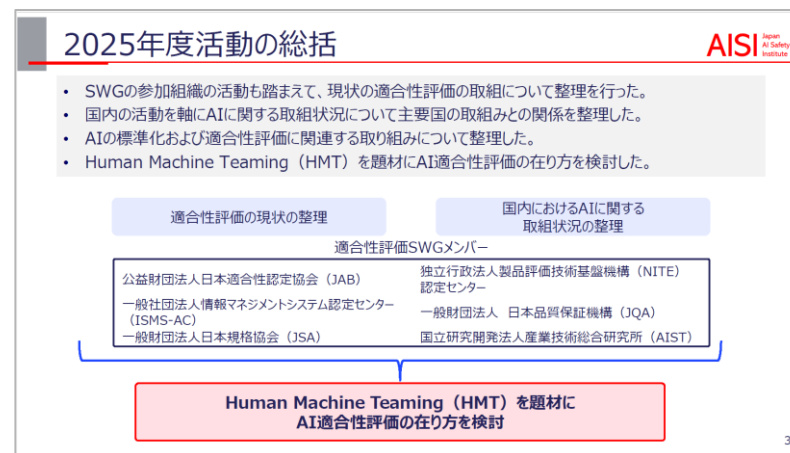
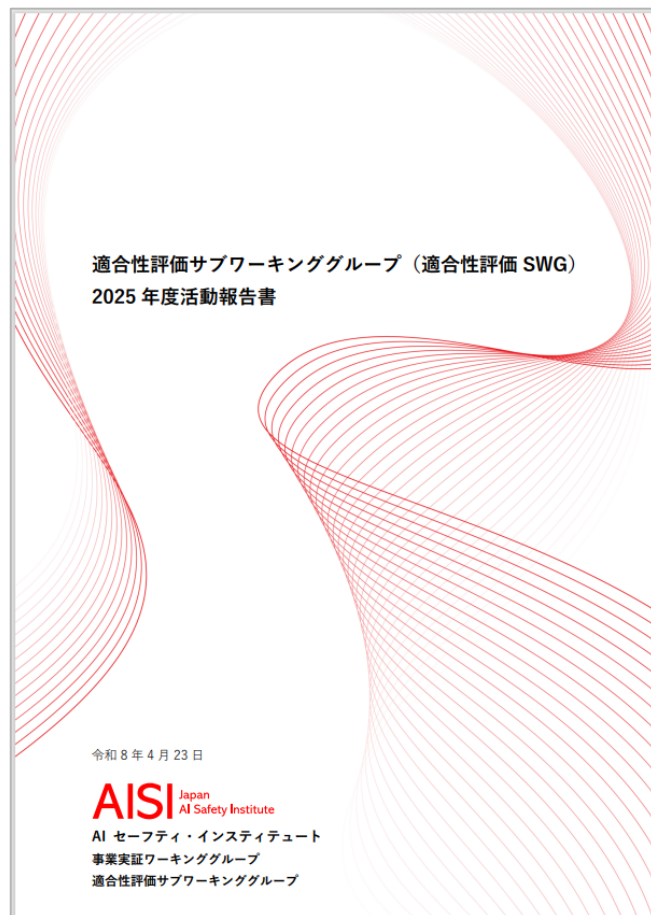


HMTは
SC42で開発中
古くはHRIなど
人と機械の協調
に関する取組みがある

- 全体を通して、エンドユーザーに提供するアウトプットのセーフティ（安全性・信頼性等）を保つことが重要であるという意見が多くあった。
- そのため、HMTを踏まえた評価では、「①サービス」のセーフティを評価するうえで、②～⑥の評価を実施するという整理になると考えられる。
- 一方で、整理した6つの評価対象を全て評価する必要がないという意見も確認された。特に「③チーム」や「⑥相互作用」に関しては明確な評価は必要ではないという意見があると同時に、「⑤組織」において重要視されている評価観点と類似していることから、「⑤組織」の観点に「③チーム」や「⑥相互作用」を含めることも一案だと考えられる。
- また、現行の「ISO/IEC 42001」は、「③チーム」、「④人」、「⑤組織」、「⑥相互作用」を全体的に含められているという意見もあり、今後は「②マシン」の評価ができる認証と連携することが重要だと考えられる。加えて、「④人」に関しては、適合性評価ではない方針も検討できるという意見があった。
- 現在の意見を取りまとめると、
HMTにおける「①サービス」の評価には、「ISO/IEC 42001」における「③チーム」、「⑥相互作用」を含む「⑤組織」の評価に加えて、「②マシン」の評価、「④人」の評価を連携したスキームが必要
という考えが一案だと考えられる。

2025年度適合性評価SWG活動報告書

2026年4月活動報告書および概要版（日・英）をAISIIウェブサイトで公開



国際標準化の最新動向

- ◆ 委員長：杉村、幹事：橋本、高村
 - ◆ WG主査・幹事
 - WG1 基礎標準：杉村・高村
 - WG2 データ：金・林谷
 - WG3 信頼性：堀江・相蘭
 - WG4 ユースケースとアプリケーション：細川・鄭
 - WG5 AIシステムの計算手法と計算特性：橋田
 - JWG2 AIベースのシステムテスト：アンドレ・木下
 - JWG3 AIを活用した保健医療情報：津本・今井・村瀬
 - JWG4 機能安全とAIシステム：相蘭・神余
 - JWG5 自然言語処理：橋田
 - JWG6 適合性評価 吉田・長谷川・高村
 - JWG7 AI対応金融システム：原・杉村
 - ◆ 情報交換会（ほぼ毎週）：チャタムハウスルールにて開催
 - ◆ 産総研受託の標準化加速事業（経産省）
 - パーソナルAIエージェントとAIエージェント時代のAIガバナンスの2つに関する調査など
 - 規格の提案、海外関係者との意見交換、シンポジウムの開催など
 - ◆ JIS発行済み
 - 22989、42001、38507、**42005、42006**
- (敬称・所属略)
- <https://itscj.ipsj.or.jp/committee-activities/committee-list.html>
- ◆ 専門委員会：各WGでの審議事項の確認と技術委員会对応など（月一開催）
 - ◆ 主査・幹事会：各WGの進捗状況、課題など情報共有（月一開催）
 - ◆ 各WG：月2回程度開催（審議案件次第）

ご関心ありましたら是非ともご参加ください！

- ◆ 他のAI標準化活動（ITU、AI for GoodやGPAI等）は組織間連携にて対応
- ◆ **フォーラム・デファクト標準の動きも重要**：Linuxファウンデーション（MCP、A2A）、IEEE、IETF他

SC42最近の話題

- ISO/IEC42001が出版されました、**42001認証**がスタートしています
- 欧州AI法の整合規格（hEN）とSC42での規格の関係が明確になってきました：QMSはEN18286
- AIシステムに対する**適合性評価**に関するハイレベル・フレームワーク規格42007が**ISO CASCO**の17067改定作業と連携して開始、その他、適合性評価に関する新規提案2件
- AIにおけるデータ品質：5259シリーズが完成
- 機能安全とAI：ISO/IEC TS22440が開発中です
- Red Teamingなど含め、AIのテスト技術に関する規格開発がはじまりました：42119シリーズ
- 日本主導の**Human-Machine Teaming**の規格開発がはじまっています：25589
- **適合性評価に使える国際標準**は？

- ◆ ISO/IECの合同委員会JTC1の下にあるサブコミッティのひとつがSC42です
- ◆ 国内体制は、産総研 杉村（HoD）、橋本、高村（幹事）を中心にメーカ、大学から委員参加
- ◆ 事務局はJISCより委託を受けている情報処理学会 情報規格調査会が担当
 - ◆ JISC：経済産業省に設置されている審議会で、Japanese Industrial Standards Committeeの略称

2026年度の活動について

- CCASの深化、具体化：Trust by Designの実現・実装を適合性評価から支援
- 受審側組織へのヒアリング：JaDHA、HAIP、RRI、ロボット工業会、JEITA、JUASなどを想定
- 標準型BRiDGEとの連携：R9にパイロット評価の実施を計画
- ◆ 標準型BRiDGE（AI分野における新たな適合性評価の検討←AI分野におけるJoint Certificationの検討）との連携
 - ①調査＆共同研究、②**勝ち筋シナリオ**、③パイロット評価の検討、④AI標準化＆適合性評価人材育成プログラムの検討
- ◆ HMTを（自律性により）詳細化し、Agentic AIを含むAIサービスを評価対象としたときの適合性評価の在り方について検討 ⇒ CCASの深化＆具体化を進める
 - 評価側：既存の適合性評価スキームをAIサービスに適用すると見えてくること
 - 受審側：自己適合宣言～第三者評価まで、あると嬉しい制度と業界の希望など（アンケート＆ヒアリングも含）
- ◆ CCAS（Compositional Conformity Assessment Schemata）とは？
 - AI分野における適合性評価を包括的に実施するスキーム群：組織内＋組織外（XXチェーン）
 - **既存の適合性評価国際規格（17000シリーズ、CASCO toolbox）やSC42における関連規格、ISO/IEC42001、42006、42007等と連動させる**
 - 組織、製品、要員認証などのスキームを柔軟に組合せ
 - 各種ガイドライン（AI事業者ガイドライン、OECD指針、SBOM for AI、Model Card等）への取組みも考慮
 - 評価対象、評価基準、評価手法の開発：特にAIサービスの評価について
 - 加点方式でトータルに評価する仕組みの構築と制度設計
 - 制度を運用できるための国内体制の構築
 - 制度の相互運用性と相互承認に向けた取組み検討

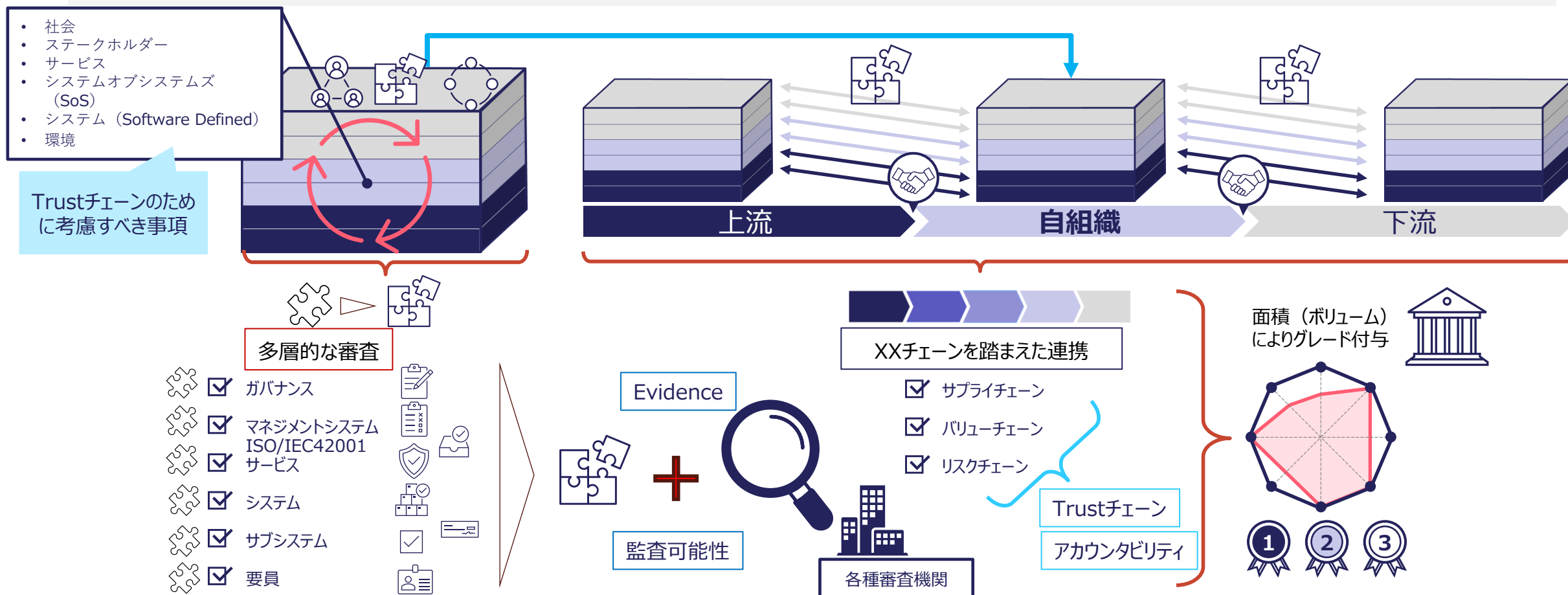
System Assuranceをイメージしていただければ、
特段、奇異な取組みではないかと・・・

欧州専門家との意見交換においても同意見
しかし、実際に制度設計することは諸々課題があることも事実

DEOSプロジェクト、アジャイル・ガバナンス、SoSガバナンスプロジェクト等
の知見が活かせると考えている

目指していくAI適合性評価の姿：CCAS

- AI適合性評価のあるべき姿としては、組織内の評価のみならず、組織間（Trustチェーン：サプライチェーン、バリューチェーン等）についても考慮した包括的な評価が実施できる仕組みを目指す
 - 組織内の多層的な評価を、組織間の関係性も含め総合的に評価する
 - 相互運用、相互承認を含めて、実現可能な制度設計を提案する



ISO/IECでは、ISO/IEC17067改定（CASCO）と ISO/IEC42007（SC42）でも適合性評価スキームの組合せについて規格開発中

- ◆ そもそも、（適合性）評価は何のために、誰のためにするのか？
 - AIセーフティを適正に評価し、安全・安心・快適な社会の実現のため
 - 既存の適合性評価スキームだけで十分か？
 - 不足している部分は適合性評価の範疇でないと切り切れるのか？
 - ◆ 国際規格における適合性評価スキームの組合せにおいて、
 - 制度設計まで規格は規定していない（スキームオーナー任せ）
 - 各スキームは独立、垂直、互いに素と言い切れるのか？
 - 包括的なAI適合性評価を考えるうえで接続部を考えなくて十分か？
 - 新たな規格の策定が必要？
 - 単独スキームの限界を、スキームの範囲外とってしまっているのか？
 - 少なくとも限界を明確にする必要はないか？
 - ◆ System Assuranceを考えると、（例えば、プラント操業の可否）
 - 個々の機器の機械安全 + 工場全体の電源など（全体安全）⇔ 国内制度との関係は？（工場立地法等）
 - 労働安全との関係
 - ◆ Linux FoundationにAppia Foundationが設立された、MCPやA2A：フォーラム・デファクト標準の重要性
 - ◆ サプライチェーンマネジメントを考慮した制度も
 - ◆ 単一組織、単一機関ですべてを完結できない現状（フロンティアモデルを開発できる組織は限定的）
 - 複数レイヤをまたがる課題（電力、ハード、インフラ、モデル、アプリ）
- 法・規制・標準・適合性評価の関係を明確にできないか？
 - 法（規制）、規制への適合証明としての適合性評価
 - 欧州規制と対等（相互承認）な制度設計とは？
 - （Cf.欧州NLF）

ご所属組織のご専門・ご経験の観点から、以下の観点でご意見をお願いします。

(1)既存の適合性評価スキームに照らした課題と限界

- 所属組織における適合性評価の活動としてCCASを見た場合に、業務で使用している既存の適合性評価スキームに照らして、どのような課題と限界があるか。（CCASのうち、どの範囲まで評価可能か、どの部分から評価が困難となるか）

(2)既存の適合性評価スキーム間のCompositionに必要となる事項

- 所属組織が扱っていない他の適合性評価スキームとシームレスに接続する(Composition)ために、スキームの連結(接続)部分への要求事項は何か。（単にスキームを重ねるのではなく、両者を接続し、ずれや崩れを防ぐための仕組み）

(3)実現可能なCCAS構成に関するご提案

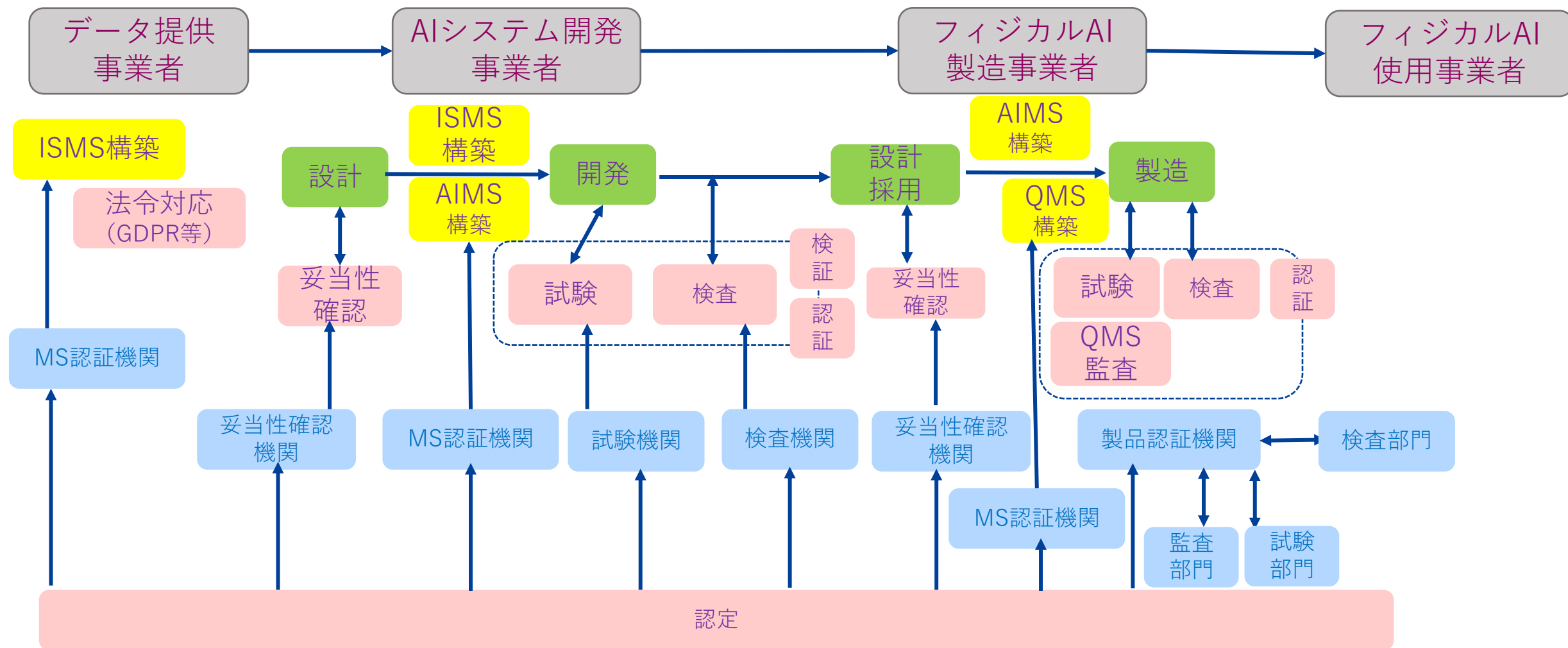
- 実現可能性を考慮した場合に、すべての適合性評価スキームを組合せることは困難と考えるか。
- その場合、AIセーフティの観点から、優先的に組み合わせるべきスキームは何か。事例を提示し、実際に適用するために必要となる制度、手順、体制等の方策をご提案いただきたい。

※一般論での整理が難しい場合には、HMT等を例として、対象とするタイプ、評価対象を想定して、ご検討いただきたい。

CCASに関して（１）

適合性評価スキームは一つで実現

NITE吉田様より



AISI

Japan AI Safety Institute

More for Another Day

前後左右・上下全ての方向をみつつ
N方良しとなるために